

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

青都計第162号

令和5年6月15日

青森県知事 三村 申吾 殿

提出者

住 所 青森県青森市長島一丁目1番1号

氏 名 青森県知事 三村 申吾

電話番号 017-722-1111(内線)6783

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称 岩木川浄化センター

事業場の所在地 青森県弘前市大字津賀野字浅田1168

計画期間 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

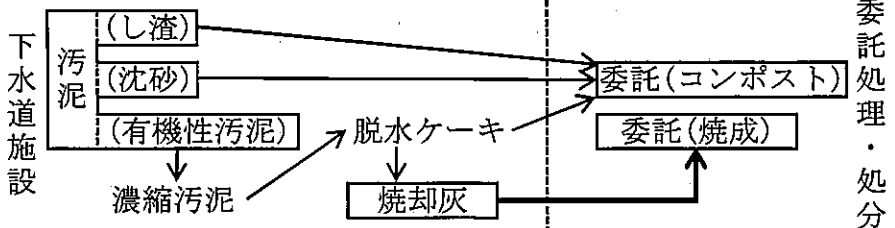
当事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類 流域下水道事業

② 事業の規模
令和4年度実績
流入量 : 28,710,290 m³
放流量 : 27,238,125 m³

③ 従業員数 35人

④ 産業廃棄物の一連
の処理の工程

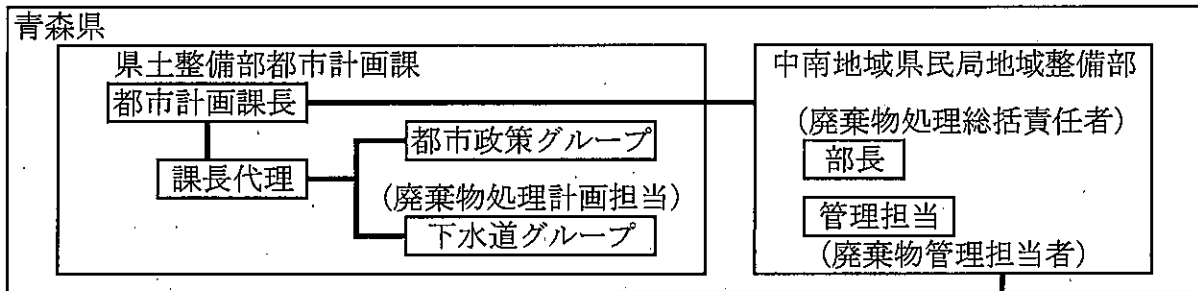


(日本工業規格A列4番)



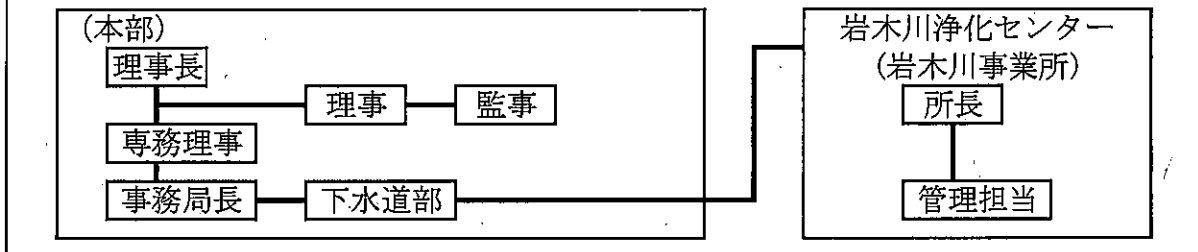
産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



契約

(指定管理者) (公財)青森県建設技術センター



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	焼 却 灰
	排 出 量	2,360.00 t	570.45 t
	（これまでに実施した取組） 下水処理工程において発生する有機性汚泥は1,026,022m ³ /年であり、濃縮工程を経て（濃縮汚泥）179,758.4m ³ /年、脱水工程を経て（脱水ケーキ）21,342.74t/年、焼却工程を経て（汚泥焼却灰）492.31t/年に減量化され、廃棄物の排出抑制に努めている。 浄化センターより発生する産業廃棄物は汚泥（脱水ケーキ）2335.93t/年、沈砂・し渣24.07t/年）及び焼却灰（570.45t/年）であり、委託処理により、汚泥はコンポスト化され、焼却灰は焼成処理されている。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	焼 却 灰
	排 出 量	800 t	650 t
	（今後実施する予定の取組） 今後、処理水量の増加に伴う汚泥の増加、及び産業廃棄物最終処分場の受入れ容量の減少が予測されることから、産業廃棄物の排出抑制及び再生利用の促進を図る必要がある。 産業廃棄物の排出抑制を目的とする下水汚泥焼却施設（80t/日）については、平成15年5月より供用開始している。		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
② 計画	(今後分別する産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	— t	— t
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	— t	— t

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋処分投入を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋処分投入を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状

【前年度（令和4年度）実績】		
産業廃棄物の種類	汚 泥	焼 却 灰
全 処 理 委 託 量	2360.00 t	570.45 t
優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	— t	— t
再生利用業者への 処 理 委 託 量	2360.00 t	570.45 t
認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	— t	— t
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	— t	— t
(これまでに実施した取組)		
今後、処理水量の増加に伴う汚泥の増加、及び産業廃棄物最終処分場の受入れ容量の減少が予測されることから、産業廃棄物の排出抑制及び再生利用の促進を図る必要がある。		

(第5面)

② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	焼 却 灰
	全 処 理 委 託 量	800 t	650 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	— t	— t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	800 t	650 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
	今後、処理水量の増加に伴う汚泥の増加、及び産業廃棄物最終処分場の受入れ容量の減少が予測されることから、産業廃棄物の排出抑制及び再生利用の促進を図る必要がある。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。